②「正義」について［これは二九〇頁の『ハートの働き』についての探求のための参考資料である――編集者］

Ⅰ　しかしながら、対話の中でアンダーソン教授に対して、「無比較の人生」を送ることの尊さを教えていくことが教育の重要な役割をクリシュナムルティが強調している場面がありますが、私自身教育の世界に身を置く一人の人間として、襟を正さずにはおれないですね。

ただ、ここで触れておきたいことは、今お話していることはあくまで人間一人ひとりが日々生きていく中での心の姿勢を中心としたものであるということです。人間が集団として安定した状態で生きていく上で、社会制度が必要であることは多言を要しないことだと思います。そして、社会制度を支えるものとして最も重要な位置を占めるのが法の存在だと言えましょう。そして、法ときってもきれない関係にあるのが正義をめぐる問題です。このことについて藤川吉美氏は次のように言っています。

ソクラテスは正義のために毒杯をあおぎ、キリスト教徒は正義のために剣を手にした。そして、ルターは正義のために免罪符を斥け、人民は正義のために君主に銃をつきつけた。まさしく、すべてが正義原理の対立による〈正義闘争〉であった。（『正義論入門』）

ここには人類の歴史を「正義闘争」の歴史とみなす考え方が披瀝されているわけですが、人間集団の生を全体として維持していくという視点に立った場合、人類が古来正義と呼ばれてきたものの上に人間社会の存立の柱を打ち立てようとしてきたこと、そしてこのことは現代においても変わることなく追求されていることの意義は認めなければならないでしょう。

しかしながら、営々と続いてきた人類の歩みとともに、忘れてはならないことは人間一人ひとりが時々刻々生きていく中にあって、他者といかなる関係を結んでいくべきか、まさに今現在の世界中で展開されているであろう「私とあなた」の人間関係に必要な心性ということになると、今お話してきた法の世界、正義の世界と

は次元を異とする問題領域が存在すると言えるのではないかと思います。

そして、この問題、すなわち時々刻々の「私とあなた」の人間関係にスポットを当て、そのことの待ったなしの重要性を世界中の人々に気づかせようとした人物こそが、クリシュナムルティだったと言えるのではないかと私は思います。人類の真の進歩、真の平和の建設のためには、地球上で無数に取り結ばれる時々刻々の「私とあなた」の人間関係の真の改善なくして達成されることはない、ということは断言できるのではないでしょうか。